

# Encourage & Company

皆さんこんにちは。  
エンカレッジアンドカンパニーの堀です。

私のコラムでは、中国の故事成語について、我々の日常に何か応用できないか、という観点でシリーズとして書き綴っています。

第1回目は「牛耳る」という言葉についてお話しました。

第2回目は「鳴かず飛ばず」。

第3回目は「司馬懿仲達」について。

第4回目は「我れ鳥獣にあらず」。

第5回目は「国士無双」「狡兎死して走狗煮らる」。

第6回目は「鼓腹撃壤」。

第7回目は「外戚」という言葉について。

私が30代のある時、社会に対しどうゆう姿勢で向き合えば良いか思い悩む日々がありました。特に悩んでいる様子を見せませんでした。が、察しの良い中国人がくれたメールにこんな文章がありました。

「三十にして立つという言葉があります。堀さんの周りは年齢も経験も上の人たちばかりかもしれませんが、堀さんは既に独立した個人であり、その人たちとは対等の立場です。」

本家本元に孔子の言葉を引用されたこと、彼に悩みを見透かされたこと、2つが相俟って私の心に孔子の言葉が深く突き刺さりました。それがキッカケで論語を意識的に読んでみようと思いました。

孔子が生まれたのはB.C.551年。12年先輩にインドのブッダがいて、100年後輩にギリシャのソクラテス、550年後輩にイエス・キリストがいます。

孔子は、夏・殷・周の周の時代に魯の国の司空（土木の大臣みたいな役職）に昇りつめています。

三国志の袁紹は四世三公(しせいさんこう)と呼ばれており、四代にわたって三公(太尉・司徒・司空)を輩出した名門中の名門です。しかし孔子は袁紹とは正反対、いわゆる“持たざる者”です。親の七光りなしで実力で昇りつめた男ということになります。

論語で私の心にヒットしたお話を1つご紹介しようと思います。

# Encourage & Company

「子曰わく、礼楽を節せんことを楽しみ、人の善を道うことを楽しみ、賢友多きを楽しむは、益なり。」

3つの楽しみはよいことだというお話しです。

- ①礼儀と音楽の楽しみ
- ②人のよいところを見つける楽しみ
- ③よい友人が増えることの楽しみ

私の心にヒットしたのは” ②人のよいところを見つける楽しみ” です。

自然と実行しているタイプですが、心に余裕がなくなったり、精神衛生環境の悪い世界にいと、いつのまにか忘れてしまっているかもしれません。どんな状況に放り込まれても自分から自然と” ②人のよいところを見つける楽しみ” が実行できるようになりたいなと思ってます。最近トイレに論語を置いてチビチビ読んでます。その度に②を思い出せば何にも影響されない②が手に入るかもしれません。

堀 洋三